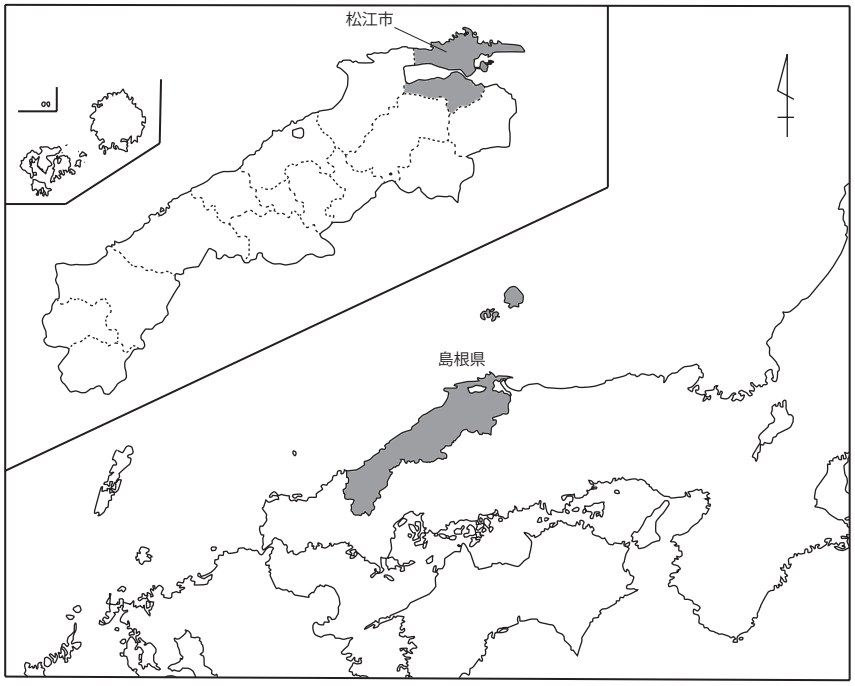
埋蔵文化財課年報〈26〉

令和３・４年度

2022 年 10 月

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団



松江市位置図

表紙写真：布志名焼窯跡群　松江藩御用窯（土屋窯）関連出土遺物

第１章　公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団の沿革と組織

設　立　昭和 51（1976）年 4 月 1 日　財団法人松江市教育文化振興事業団を設立。

沿　革　平成 25（2013）年 4 月 1 日　公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。

平成 28（2016）年 7 月 1 日　公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団に名称変更。

所在地　松江市学園南 1 丁目 21 番 1 号

目　的　この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。

事　業　（1）スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業。

（2）すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。

（3）多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動推進に関する事業。

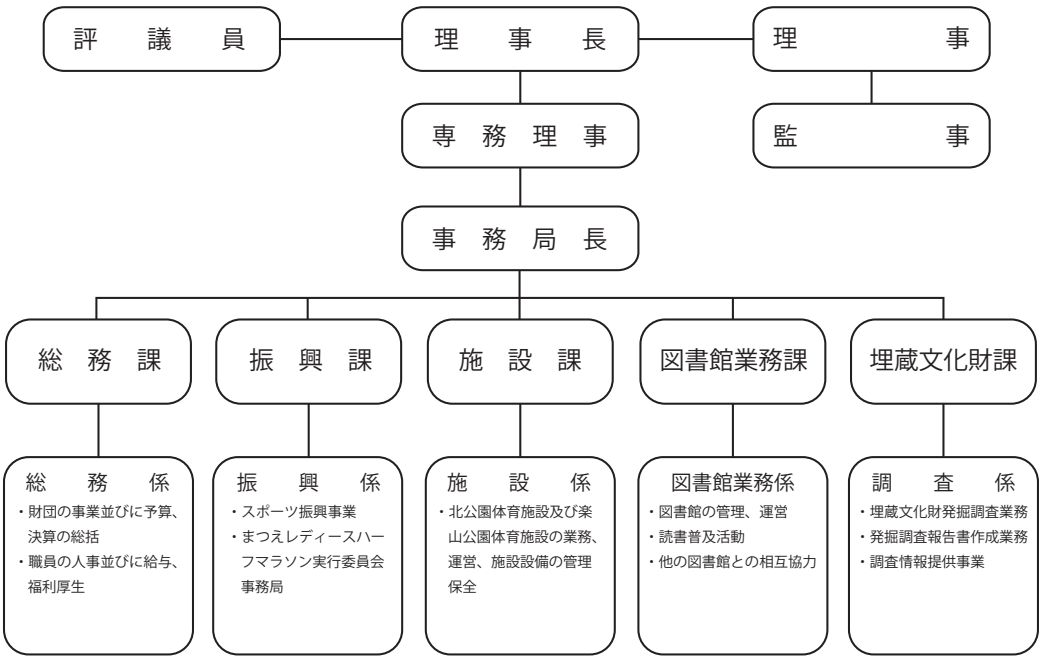
（4）埋蔵文化財の適切な保護と活用のため、発掘調査・研究や出土品の収集・整理および調査結果の情報提供を行う事業。

（5）児童および青少年の健全な育成を目的とする事業。

（6）教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。

（7）その他この法人の目的を達成するために必要な事業。

組　織　令和 4（2022）年 4 月 1 日現在



◇　埋蔵文化財課

設　　立　　平成５（1993）年７月１日

所 在 地　　〒690-0401　島根県松江市島根町加賀 1263-1

Ｔ　Ｅ　Ｌ　　０８５２－８５－９２１０

Ｆ　Ａ　Ｘ　　０８５２－８５－３６１１

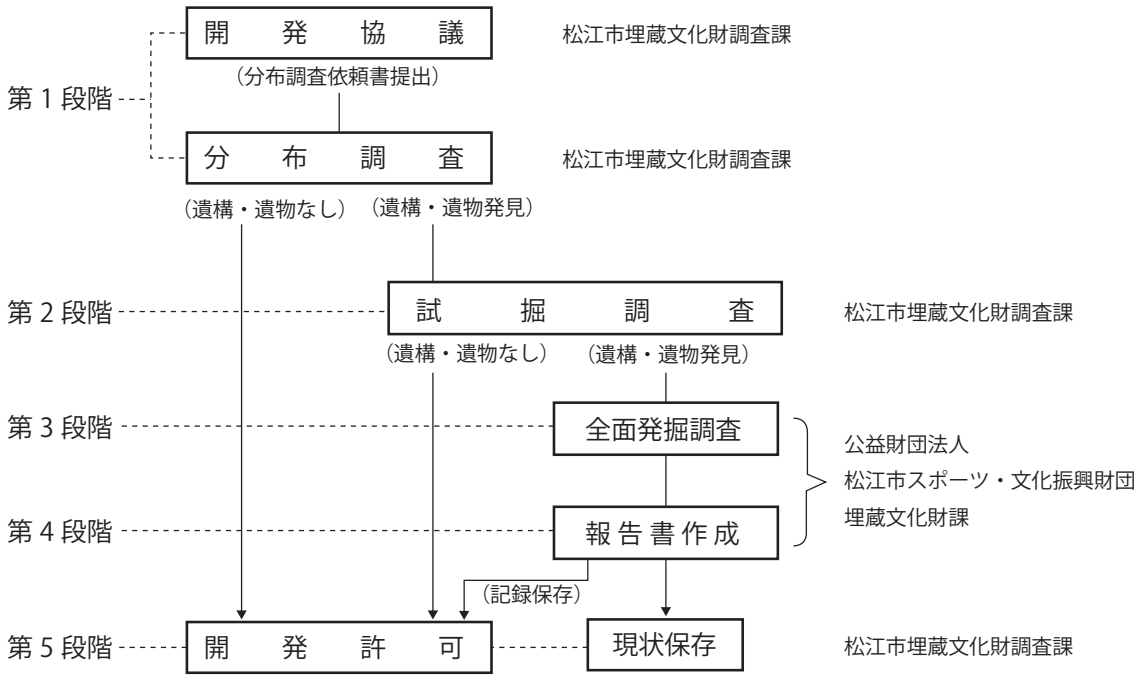
業　　務　　埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

埋蔵文化財課の庶務経理 (予算および決算を含む) に関すること。

◇　令和３・４年度　職員体制

理 事 長	星野芳伸
専務理事（事務局長兼務）	菅井公治
埋蔵文化財課長	宮本英樹
調査係長（調査員）	小山泰生
主　　任（調査員）	江川幸子（令和３年度）
嘱託職員（調査員）	江川幸子（令和４年度）　廣濱貴子　徳永桃代（令和３年度）
嘱託職員（調査補助員）	北島和子　宇津直樹　木村由希江　建神結香子（令和３年度）
嘱託職員（事務）	曽田　健　田中由巳　中釜拓生

◇　松江市埋蔵文化財業務フローチャート



第２章　令和３・４年度事業の概要

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財課では、令和３年度において４班体制で４遺跡の発掘調査業務および７事業の発掘調査報告書作成業務を行い、令和４年度において３班体制で５事業の発掘調査報告書作成業務を行った。各年度の事業の概要は以下のとおりである。

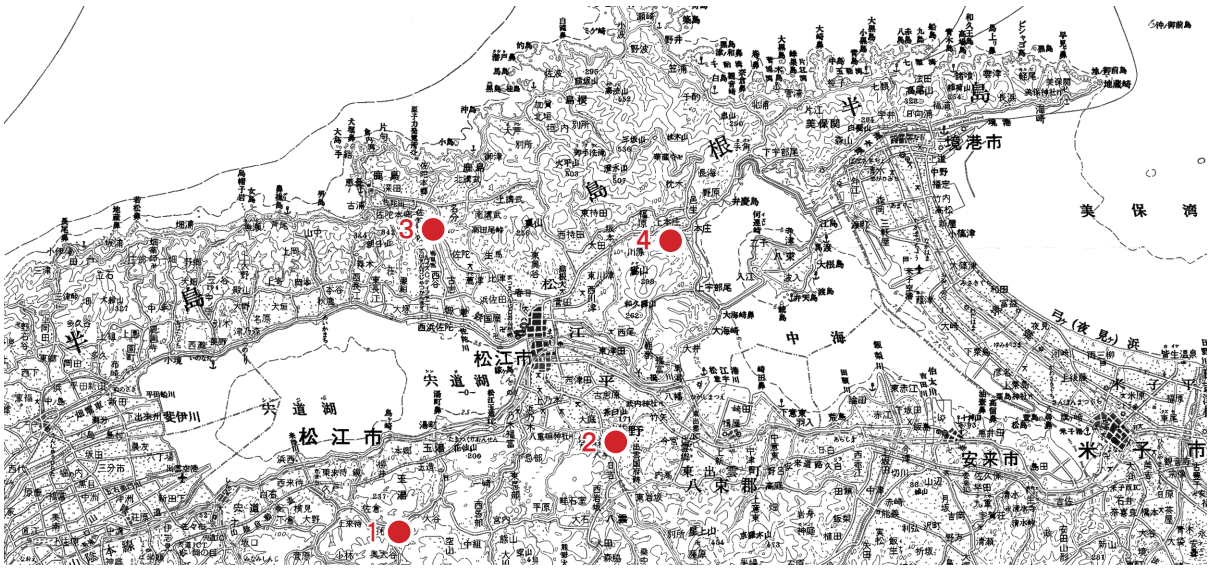
１．発掘調査業務

令和３年度事業として、（主）玉湯吾妻山線（大谷２工区）道路改良事業【A 区間】に伴う湯町八川往還、大庭町宅地造成工事に伴う下黒田遺跡、重要文化財佐太神社正中殿ほか２棟防災施設等事業に伴う佐太前遺跡・佐太神社神宮寺跡、新庄地区農地中間管理機構関連農地整備事業に伴う黒添遺跡の４遺跡の発掘調査を実施した。令和４年度は発掘調査業務を実施していない。

２．発掘調査報告書作成業務

令和３年度事業として、（仮称）アークタウン大庭造成工事に伴う大庭小原遺跡、アバンシティ樹造成工事に伴う乃木西廻遺跡、市道西尾大井線道路整備事業に伴う朝酌菖蒲谷遺跡（２区）、朝酌矢田地区共同墓地整備事業に伴う若宮谷遺跡、山林崖崩れ対策工事に伴う布志名焼窯跡群、大庭町宅地造成工事に伴う下黒田遺跡、（仮称）グリーンテラス東津田団地造成事業に伴う南外古墳群・岩井手谷遺跡の７事業の発掘調査報告書作成業務を行った。

令和４年度事業として、（主）玉湯吾妻山線（大谷２工区）道路改良事業【A 区間】に伴う湯町八川往還、松江法務総合庁舎新営工事に伴う松江城下町遺跡（母衣町 50 外）、新庄地区農地中間管理機構関連農地整備事業に伴う新庄寺ノ前遺跡・本庄川流域条里制遺跡・黒添遺跡、（仮称）グリーンテラス東津田団地造成事業に伴う南外古墳群・岩井手谷遺跡・櫨岡古墳群・奥宇田瀬遺跡、重要文化財佐太神社正中殿ほか２棟防災施設等事業に伴う佐太前遺跡・佐太神社神宮寺跡の５事業の発掘調査報告書作成業務を行った。



令和３年度発掘調査実施箇所位置図

1. 湯町八川往還　　2. 下黒田遺跡　　3. 佐太前遺跡・佐太神社神宮寺跡　　4. 黒添遺跡

湯町八川往還（ゆまちやかわおうかん）

1．所　在　地　松江市玉湯町大谷 60 番地外

2．調 査 面 積　240㎡

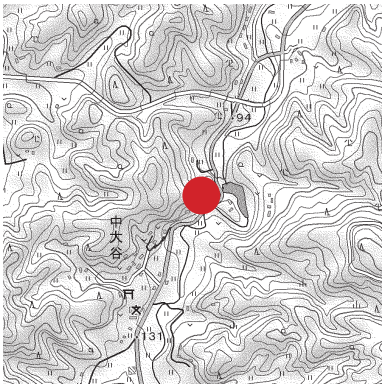
3．調 査 期 間　令和 3 年 5 月 13 日～ 7 月 30 日

4．調 査 原 因　玉湯吾妻山線道路改良事業

5．遺跡の種別　街道跡

6．遺跡の年代　近世・近代

7．調査の概要

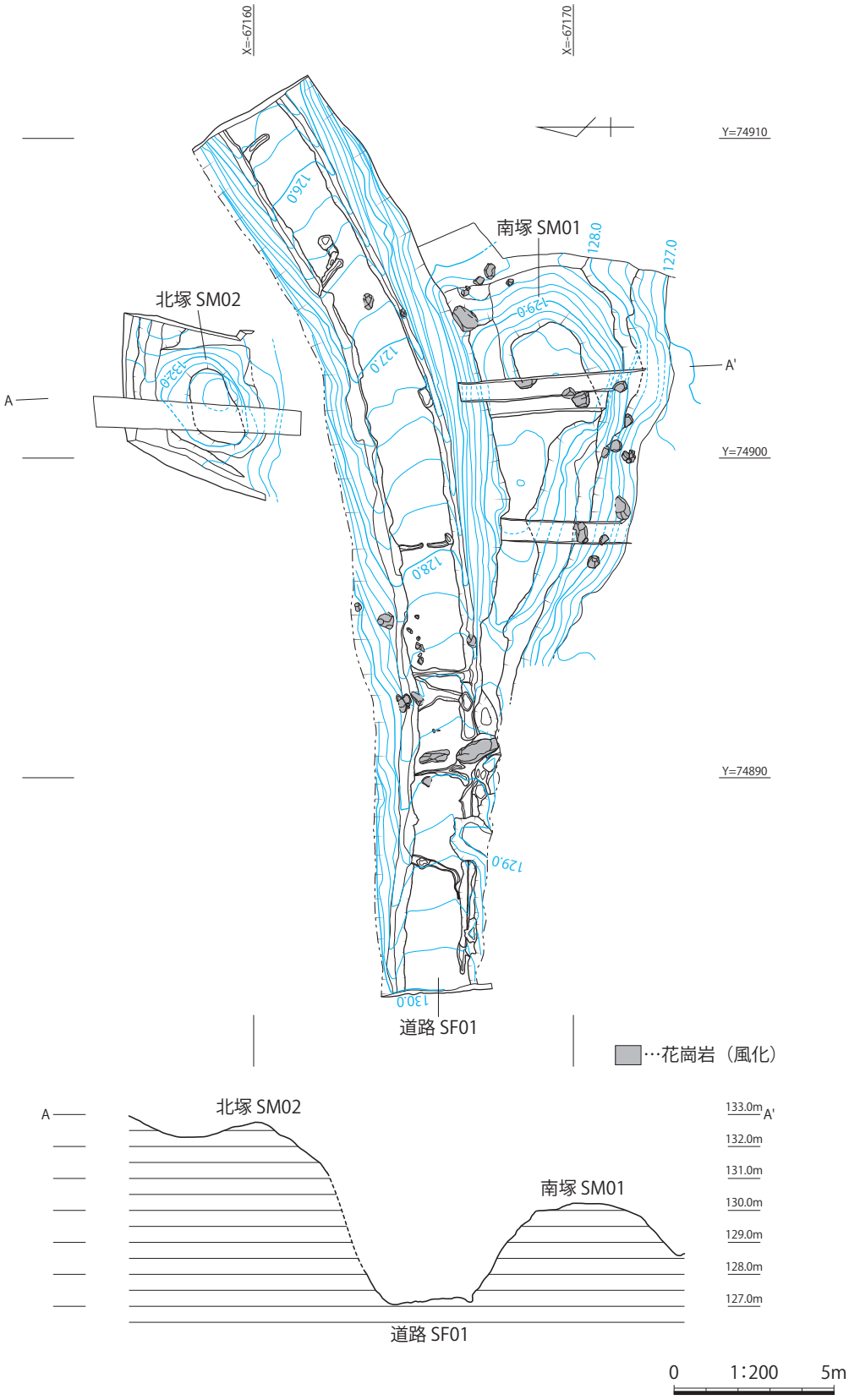


調査地位置図

湯町八川往還は、宍道湖南岸を東西に並走する山陰道から松江市玉湯町湯町で南へ分岐して、仁多郡奥出雲町八川を経て島根県と広島県の県境まで通じる路線として推定されている。この路線は総距離約 59㎞で、近世においては出雲や備後の人々の往来や物資輸送のための「陰陽連絡路」として重要な経路とみなされていた。

調査地は、松江市玉湯町大谷に所在する標高 126 ～ 130mの丘陵中腹部に位置し、東西延長 30m区間の発掘調査を行った。調査の結果、既存の赤道部分で道路 SF01、赤道南側の低丘陵部分で南塚 SM01、赤道北側の荒神が祀られている場所で北塚 SM02 を検出した。調査地周辺では北東から南西へ縦断する赤道が湯町八川往還の推定ルート上に比定され、まさに今回の調査で検出した道路 SF01 がこの街道跡にあたるものと考えている。調査成果から SF01 の道路構造は、道路幅 2.2m（路面幅 1.8m）を測り、路面の両側に素掘りの側溝を伴うということが明らかとなった。（小山泰生）

湯町八川往還　道路 SF01 完掘状況（東から）



湯町八川往還遺構配置図および調査区南北横断図

下黒田遺跡（しもくろだ）

1．所　在　地　松江市大庭町 52 番地 5 外

2．調 査 面 積　398.2㎡（1 区：352.7㎡、2 区：45.5㎡）

3．調 査 期 間　令和 3 年 4 月 15 日～ 6 月 15 日

4．調 査 原 因　宅地造成工事

5．遺跡の種別　集落跡

6．遺跡の年代　古代・近世

7．調査の概要

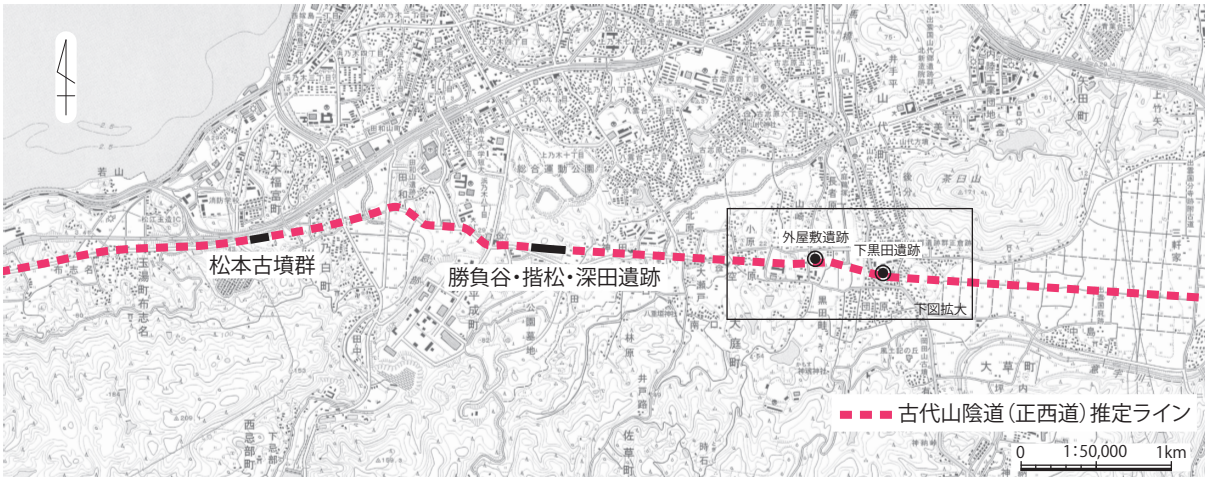
調査地位置図

下黒田遺跡は、松江市街地南郊の大庭町字下黒田に所在し、調査地は意宇平野の北西端にある茶臼山から南西へ約 500m離れた地点に位置する。本遺跡の北側には下黒田遺跡（昭和 62 年度調査）や山代郷正倉跡が隣接し、その周辺には黒田畦遺跡や黒田館跡など古代の官衙関連遺跡が集中する場所として周知されている。また、本遺跡は古代山陰道（正西道）の推定ルート上に位置しており、発掘調査開始当初から注目される地点となっていた。

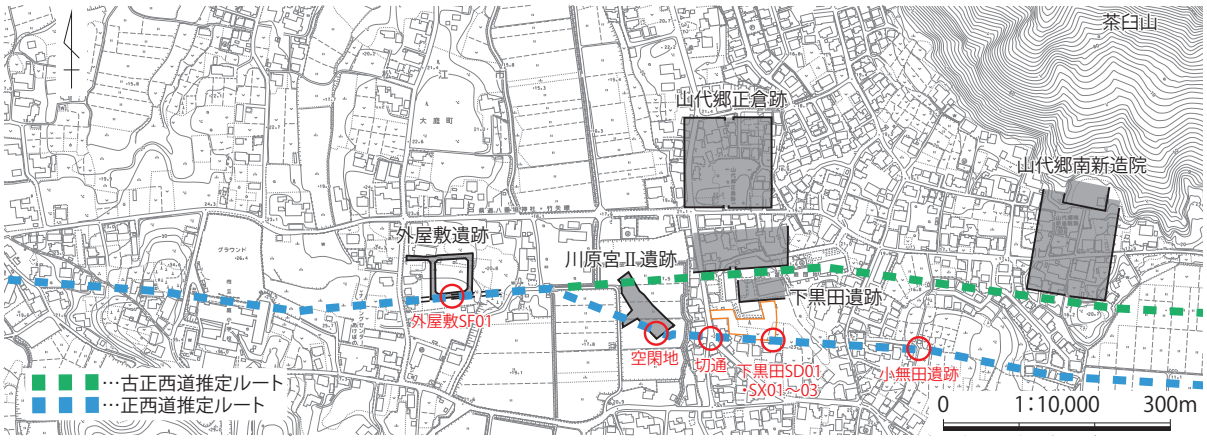
調査区の設定は、宅地の道路新設範囲を 1 区、擁壁設置範囲を 2 区とした。調査の結果、1 区では古代と近世の掘立柱建物跡を 2 棟および柱穴・土坑群、2 区では古代の溝を 1 条と不整形土坑を 3 基検出した。2 区で検出した溝 SD01 と波板状凹凸面の可能性がある不整形土坑 SX01 ～ 03 は、古代山陰道に関連した遺構と考えている。しかし、2 区の遺構には遺物を伴わず、時期的な確証が得られていないため、現状では本遺跡を古代山陰道の有力候補地点と評価しておきたい。　（小山泰生）

下黒田遺跡 1 区　掘立柱建物 SB01・02 柱穴群検出・完掘状況（北東から）

下黒田遺跡 2 区　溝 SD01・不整形土坑 SX01 ～ 03 検出状況（東から）



松江市玉湯町～大草町周辺の古代山陰道（正西道）推定ルート



古代山陰道（正西道）の復元案と周辺遺跡の位置

佐太前遺跡・佐太神社神宮寺跡

1．所　在　地　松江市鹿島町佐陀宮内 72・73 番地

2．調 査 面 積　105㎡

3．調 査 期 間　令和 4 年 1 月 4 日～ 3 月 23 日

4．調 査 原 因　重文佐太神社正中殿ほか 2 棟防災施設等事業

5．遺跡の種別　寺社跡（神社境内）

6．遺跡の年代　弥生時代・古墳時代・中世・近世

7．調査の概要

調査地位置図

佐太前遺跡・佐太神社神宮寺跡は、出雲国二ノ宮である佐太神社境内に所在する。佐太神社は、天平 5（733）年に編纂された『出雲国風土記』の記述にみられる神社で、記載内容から当該期にはすでに現在の場所に神社があったと考えられている。

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期と近世の 2 つの遺構面の調査を行った。第 1 遺構面は標高 6.0 ～ 6.2mを測り、石列・土坑・柱穴・溝を検出した。調査区の大半を占める土坑は近世の遺物包含層を基盤としており、土坑埋土から陶磁器・土師器・瓦などが出土した。土坑の時期は出土遺物から 18 世紀後半以降と考えられる。第 2 遺構面は標高 5.0 ～ 5.7mで確認した地山面である。100 基余りの柱穴を検出し、なかには布掘り柱と思われる柱穴列が確認された。遺物は弥生時代後期から古墳時代前期の壺甕類が多く、今回の調査成果から佐太神社境内および佐太神社周辺の様相を知る上で有意義な資料が得られた。（廣濱貴子）

佐太前遺跡・佐太神社神宮寺跡　第 2 遺構面完掘状況（北から）

黒添遺跡（くろぞえ）

1．所　在　地　松江市新庄町 239 番地

2．調 査 面 積　570㎡

3．調 査 期 間　令和 3 年 9 月 13 日～ 11 月 26 日

4．調 査 原 因　圃場整備事業

5．遺跡の種別　散布地

6．遺跡の年代　縄文時代・弥生時代・古墳時代

7．調査の概要

調査地位置図

黒添遺跡は、東側に中海を臨み、北側にある島根半島の北山山地から南へ派生した丘陵裾に広がる扇状地に設けられた水田地に所在する。今回の調査では、標高 12.4 ～ 13.5ｍで確認した地山面から、縄文時代の貯蔵穴を 1 基と縄文時代から弥生時代の自然流路を 4 条検出した。また、地山面では砂礫層や礫層の堆積を確認しており、これらは洪水堆積層と捉えている。貯蔵穴 SX01 は、東西長軸 94㎝、南北短軸 85㎝、深さ 33㎝を測り、埋土中から縄文時代中期末の深鉢片のほかに 20㎝前後の自然石やドングリなどの堅果類が多数出土した。

この地山面の上層では古墳時代と近世の 2 時期にわたる遺物包含層を確認した。包含層下位に堆積する古墳時代の土層から土師器と須恵器のほかに鍬や又鍬などの木製品が出土し、包含層上位に堆積する近世の土層から陶磁器片が出土した。検出した 2 時期の遺物包含層は、土層断面からいずれも水平堆積している状況がみられ、これらは旧水田の耕作土にあたるものと考えられることから、調査地周辺では断続的に農耕が行われていたものと想定している。（江川幸子）

黒添遺跡　貯蔵穴 SX01 自然石・堅果類出土状況（南東から）

第３章　財団埋蔵文化財課による主な本発掘調査の足跡（そくせき）

弥生時代　田和山遺跡（北東から）　平成９（1997）～平成 16（2002）年度調査

田和山遺跡は三重環濠の外側に集落を展開させる他に例をみない環濠集落で、その学術的価値は極めて高く、国史跡の指定を受けている。

古墳時代　櫨岡古墳群（北東から）　令和２（2020）年度調査

櫨岡古墳群は大橋川南岸の東津田町に所在し、丘陵上に築造された方墳２基・円墳４基からなる５世紀前半頃の小規模な古墳群である。

古代（奈良・平安時代）　魚見塚遺跡（南から）　平成 28（2016）年度調査

魚見塚遺跡では『出雲国風土記』の記述にみられる「枉北道」（古代山陰道）を考古学の手法のもとで初めて遺構として捉えることができた。

江戸時代　松江城下町遺跡（殿町 287 番地・279 番地外）（東から）　平成 18（2006）～平成 20（2008）年度調査

松江城北惣門（脇虎口）の正面に位置する重臣屋敷の発掘調査は、その後の松江市域における近世城下町遺跡の調査の先駆けとなった。

第４章　令和４年度以前の調査

H30 年度以前の調査は https://www.matsue-sposhin.jp を参照ください。

年度	遺　跡　名	所　在　地	遺　跡　の　概　要	報告書
H 30	白岸古墳群	黒田町	古墳時代中期の小規模古墳群。主体部は素掘りの土壙。	2018 刊
H 30	朝酌矢田遺跡	朝酌町	近世の建物跡の一部を検出。縄文時代・古代の遺物を少量確認。	2019 刊
H 30	堤ノ上遺跡	東持田町	弥生時代から近世の複合遺跡。古墳時代中期と古代の掘立柱建物を中心とする集落。近世墓群も検出。	2019 刊
H 30	朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）	朝酌町	斜面部から転落した古代を中心とする遺物包含層を調査。下層から縄文時代の貯蔵穴を検出。	2021 刊
H 30	ドロケ遺跡（1 区）	新庄町	古代を中心とする旧河道を検出。大量の遺物が出土。円面硯の焼損品などが出土。上流に窯跡の存在を推定。	2023 予
H 30	南外古墳群（3・4・5 号墳）	東津田町	3 号墳：円墳。4 号墳：方墳。5 号墳：帆立貝型前方後円墳。古式の横穴式石室基底部のみ残存。	2023 予
R 1	松江城下町遺跡	母衣町 115	城下町初期造成段階に施された島状整地の盛土痕跡を検出。19 世紀代の遺構面から石組水路・廃棄土坑を検出。	2020 刊
R 1	若宮谷遺跡	朝酌町	谷地形に堆積する古墳時代から古代の遺物包含層を調査。調査区西側では中世の混貝土層（貝塚）を検出。	2021 刊
R 1	ドロケ遺跡（2 区）	新庄町	前年度のドロケ遺跡 1 区の調査で検出した自然流路の続きを面的に確認。古代の須恵器・土師器等の遺物が大量に出土。	2023 予
R 1	新庄谷内遺跡	新庄町	多数の柱穴を検出し、8 棟の掘立柱建物を想定復元。古墳時代から古代の遺物包含層を調査。	2023 予
R 1	神田Ⅱ遺跡	大庭町	掘立柱建物・加工段等を検出。古代の須恵器・土師器等の遺物が出土。	2021 刊
R 1	岩井手谷遺跡	東津田町	縄文時代・古墳時代中期・古代の 3 時期にわたる遺構と遺物を検出。	2023 予
R 1	南外古墳群（5 号墳）	東津田町	前年度継続。5 号墳：帆立貝型前方後円墳。古式の横穴式石室基底部のみ残存。墳丘旧表土面以下から旧石器時代の石器が出土。	2023 予
R 1	奥宇田瀬遺跡	東津田町	竪穴建物・掘立柱建物・加工段・狩猟用の落とし穴等を検出。竪穴建物は建て替えを含めて 19 棟確認。水晶の玉製作を主とした工房跡も検出。	2023 予
R 1	乃木西廻遺跡	上乃木	縄文時代の狩猟用の落とし穴、弥生時代後期の竪穴建物 5 棟を検出。	2021 刊
R 2	松江城下町遺跡	母衣町 50 外	17 世紀初頭～ 19 世紀後半までの武家地を調査。17 世紀前半の遺構面から京極期の町屋に伴う礎石建物を検出。	2023 予
R 2	乃木西廻遺跡	上乃木	前年度継続。縄文時代の狩猟用の落とし穴 24 基、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物 12 棟、中世以降の掘立柱建物 10 棟を検出。	2021 刊
R 2	大庭小原遺跡	大庭町	弥生時代中期の袋状貯蔵穴 3 基、古墳時代中期末の竪穴建物 2 棟を検出。	2012 刊
R 2	布志名焼窯跡群	玉湯町	江戸時代の布志名焼窯跡群を調査。連房式登窯で、煙出と焼成室 2 室を検出。窯跡は布志名焼の松江藩御用窯である土屋窯に位置づけられる。	2022 刊
R 2	新庄寺ノ前遺跡	新庄町	縄文時代から中世の遺物包含層を調査。縄文土器・土師器・須恵器・中世陶磁器が出土。包含層の下層に堆積する洪水堆積層を検出。	2023 予
R 2	本庄川流域条里制遺跡	新庄町	古代の条里遺構は検出できなかったが、数回にわたって改変されている中世から近世の水田跡を検出した。	2023 予
R 2	櫨岡古墳群（1 ～ 6 号墳）	東津田町	古墳時代前期末から中期前半の古墳群。4・6 号墳：方墳。1・2・3・5 号墳：円墳。	2023 予
R 3	湯町八川往還	玉湯町	19 世紀後半頃の近世街道跡を調査。道路構造は道路幅 2.2mを測り、路面の両側に側溝を伴う。道路の両側で塚 2 基を検出。	2022 刊
R 3	下黒田遺跡	大庭町	1 区で古代と近世の掘立柱建物を検出。2 区で道路側溝と路面上で波板状凹凸面を検出し、正西道に関わる遺構である可能性を想定。	2022 刊
R 3	佐太前遺跡・佐太神社神宮寺跡	鹿島町	弥生時代後期から古墳時代前期と近世の遺構面を調査。土坑や柱穴を検出。弥生時代後期から古墳時代前期の遺構面から遺物が多数出土。	2023 予
R 3	黒添遺跡	新庄町	縄文時代の貯蔵穴 1 基、縄文時代から弥生時代の自然流路 4 条を検出。遺物包含層から古墳時代の土師器・須恵器や近世の陶磁器が出土。	2023 予

埋蔵文化財課年報〈26〉

令和 4（2022）年 10 月　発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

印刷

千鳥印刷株式会社

島根県松江市春日町 344 番地 2